

IV-4 中部

2024年春の北陸新幹線延伸を見据え、
観光施設がオープン、キャンペーンを展開
下呂温泉観光協会が先駆的DMOに選定

(1) 都道府県レベルの旅行者動向

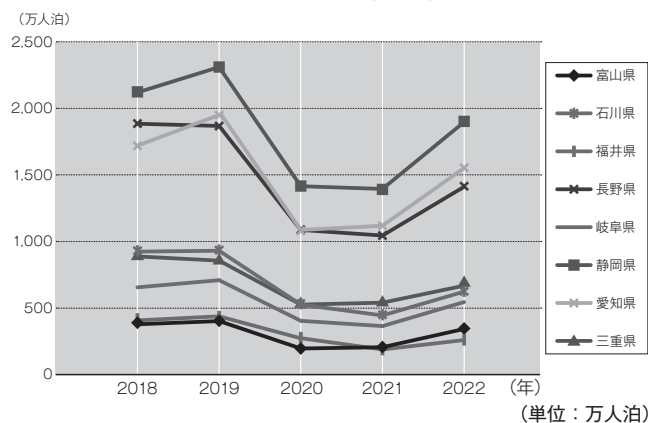
観光庁「宿泊旅行統計調査」によると、2022年1月から12月の中部地方8県の延べ宿泊者数は7,299万人泊であった。前年比33.8%の増加で、大幅な減少が生じた2020年、2021年から回復傾向が見られる(図IV-4-1)。

県別に見ると、延べ宿泊者数が最も多いのは静岡県で、愛知県、長野県と続く。いずれの県も前年より増加しており、増加率の大きい順に石川県(47.2%増)、岐阜県(46.0%増)、愛知県(39.4%増)、三重県(32.9%増)、長野県(30.7%増)、静岡県(28.4%増)、富山県(28.1%増)、福井県(16.3%増)であった。

また、外国人の延べ宿泊者数は中部地方全体で100.5万人泊であった。2年連続の大幅減から一転、前年比190.7%の増加となった(図IV-4-2)。

県別に見ると、外国人延べ宿泊者数が最も多いのは愛知県で、長野県、静岡県と続く。延べ宿泊者数と同様に、いずれの県も前年より増加しており、増加率の大きい順に石川県(563.2%増)、岐阜県(295.8%増)、富山県(283.3%増)、愛知県(216.0%増)、三重県(186.9%増)、長野県(186.3%増)、静岡県(82.9%増)、福井県(33.0%増)であった。

図IV-4-1 延べ宿泊者数の推移(中部)



都道府県名	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
富山県	378	381	223	239	307
石川県	913	920	520	445	655
福井県	406	414	256	233	271
長野県	1,832	1,805	1,124	1,084	1,417
岐阜県	685	730	450	376	549
静岡県	2,186	2,343	1,437	1,426	1,831
愛知県	1,701	1,934	1,107	1,134	1,581
三重県	890	860	507	518	688

資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

(2) 観光地の主な動向

① 地方・都道府県レベル

● 北陸新幹線延伸を見据えた沿線各地の動き

2024年3月16日に予定されている北陸新幹線金沢～敦賀間の開業を見据え、福井県を中心に観光施設のオープンやキャンペーンの展開等が相次いだ。

○ 新幹線駅周辺で観光施設が新規オープン(福井県、石川県)

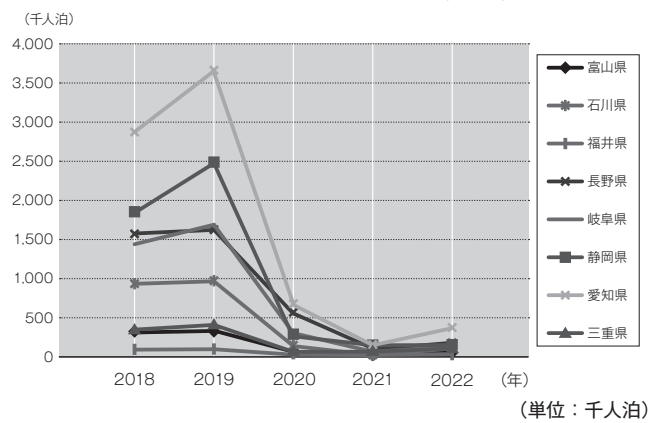
2022年9月1日、終着駅となる敦賀駅(福井県敦賀市)前に、官民連携により整備された「TSURUGA POLT SQUARE『otta』」がオープンした。芝生が広がる中央の「敦賀駅西広場公園」を囲むように飲食・物販施設やホテルをはじめ、子育て支援施設や公設書店「ちえなみき」が整備されている。

2023年3月18日、新幹線延伸時に新駅として開業する越前たけふ駅(福井県越前市)に隣接して道の駅「越前たけふ」がオープンした。飲食・物販施設をはじめ、一般社団法人越前市観光協会が運営する「越前たけふ観光案内所」、常設のパーベキュー場等が整備されている。

2023年3月19日、芦原温泉駅(福井県あわら市)西口に、賑わい施設「アフレア」がオープンした。屋根付きの「アフレア広場」とステージイベントが可能な「アフレアホール」、周辺の観光情報等を発信する「ふくいミゆ〜ジウム」等が整備されている。

また、小松駅(石川県小松市)の高架下には観光交流センター「Komatsu 九(ナイン)」が整備され、2023年6月1日にフー

図IV-4-2 外国人延べ宿泊者数の推移(中部)



都道府県名	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
富山県	306	358	51	11	42
石川県	974	985	189	13	87
福井県	76	98	23	9	12
長野県	1,527	1,578	527	63	180
岐阜県	1,484	1,660	290	31	122
静岡県	1,794	2,494	267	93	171
愛知県	2,850	3,634	660	108	342
三重県	341	389	59	17	49

資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

ドエリアが先行開業、9月には観光案内所やワークラウンジ等がオープンした。

○「ZENの息づくまち福井」等のプロモーション動画公開(福井県)

福井県は北陸新幹線延伸を見据え、認知度向上と「ふくいファン」拡大を目的として情報発信を強化している。

2022年3月29日、プロモーション動画「ZENの息づくまち福井」をYouTube等で公開した。「ZEN(禅)」は国内外からその精神性が高く評価されており、また、福井県には曹洞宗大本山永平寺をはじめ四季折々の自然や伝統文化、食文化、伝統工芸の技等、ZENと相通じる地域資源があることから、ZENをテーマとして制作された。

また、2022年7月には、「新幹線開業ウェルカムダンス」のプロモーションビデオが公開された。

○「つながる福井キャンペーン」実施(福井県)

福井県は、2023年1月から3月に北陸新幹線沿線と北関東地域(埼玉県、茨城県、栃木県、群馬県、長野県)にて「つながる福井キャンペーン」を実施した。キャンペーンでは、各県での物産フェアの開催、BリーグやJリーグのスポーツイベントでの宣伝ブース出展、JR大宮駅近くでの期間限定アンテナショップ出店等を行った。

○大手旅行会社と連携したキャンペーンの実施(富山県、石川県、福井県)

北陸3県(富山県、石川県、福井県)は大手旅行会社と連携し、全国的な誘客キャンペーンを実施している。

2022年度は、上期に阪急交通社と連携し「魅力再発見。北陸キャンペーン」、下期に近畿日本ツーリスト、クラブツーリズムと連携し「ニッポン旅列島～北陸キャンペーン」をそれぞれ実施した。いずれのキャンペーンも旅行商品の開発、販売を中心に、旅行参加者等に抽選で北陸の特産品が当たる取り組み等が行われた。

○「北陸観光PR会議」開催(富山県、石川県、福井県)

北陸3県は共同で、2022年10月24日に「第1回北陸観光PR会議」を東京にて開催した。

3県の連携による初めてのメディア関係者を対象としたPR会議であり、市町村や観光事業者等15団体が参加し、北陸の旬の観光情報のプレゼンテーションや、メディアと地元観光事業者等による商談会が行われた(その後、2023年7月時点で計3回開催)。

●大河ドラマ「どうする家康」関連キャンペーンの展開

2023年1月8日より放送が始まったNHK大河ドラマ「どうする家康」に合わせ、徳川家康ゆかりの地で誘客キャンペーン等が展開されている。

○愛知・静岡・岐阜3県による推進協議会設立と周遊キャンペーンの実施

2022年9月、愛知県、静岡県、岐阜県の3県は、「大河ドラマ『どうする家康』愛知・静岡・岐阜連携事業推進協議会」を設立した。この協議会は大河ドラマ放映を契機に、県域を越えた広域エリアへの観光誘客、周遊観光を促すことを目的としたものである。

同協議会では、2023年1月27日から3月26日、3つの大河ドラマ館(愛知県岡崎市、静岡県静岡市・浜松市)と岐阜関ヶ原古戦場記念館(岐阜県関ヶ原町)の4館を巡りデジタル武将印を集める周遊キャンペーン「家康天下道めぐり 徳川四天王をコンプリートせよ!」を開催した。また、2023年7月22日からは、3県の歴史・武将観光施設(10施設)を巡る「家康天下道めぐり 第二幕」を開催している。

○愛知県での取り組み

2022年2月、愛知県、県内市町、観光団体等により「愛知県大河ドラマ『どうする家康』観光推進協議会」が設立された。

同協議会は、愛知県の「武将観光」を全国に広くPRし、観光誘客の拡大と周遊観光の促進を図ることを目的としており、観光PRサイト「あいち家康戦国絵巻」の開設、武将観光ガイドブック「あいち家康戦国絵巻」の発行、県内周遊キャンペーン「あいち家康戦国絵巻ラリー」の開催等に取り組んでいる。また、2023年1月18日から6月25日には、JR名古屋駅中央コンコースに「家康ゆかりの地 インフォメーションセンター」を開設し、徳川家康ゆかりの地や武将観光スポット情報を発信した。

○静岡県での取り組み

「どうする家康 静岡 大河ドラマ館」の開館期間中(2023年1月27日～2024年1月28日)に、大河ドラマ館と2023年1月13日にグランドオープンした「静岡市歴史博物館」の両館に入館すると、市内の公共交通機関や観光施設の割引券がプレゼントされる「しずおか周遊割引キャンペーン」が実施されている。また、公益財団法人するが企画観光局等は、2022年10月8日より、徳川家康をはじめとする武将等が登場し、裏面に静岡市の観光情報が掲載されているシールを発売した。

浜松市と公益財団法人浜松・浜名湖ツーリズムビューローはオンライン予約サイトでクーポンを発行する「家康ゆかりの地 出世の街 浜松 観光キャンペーン」を2023年1月8日より開始した。また、「いまこそ!浜松」特設サイト内の特集記事や、2023年2月3日に公開したPR動画にて、家康ゆかりの地等を紹介している。

●羽田～能登線の搭乗率は過去2番目の低さ(石川県)

2022年7月6日、石川県は前年7月7日からの一年間(2021年7月7日～2022年7月6日)における羽田空港～能登空港線の搭乗率(速報値)が36.7%であったことを発表した(確定値は36.8%)。また、2022年6月17日の石川県議会総務企画県民委員会において、運送事業者である全日本空輸(ANA)との協議により、同期間における搭乗率保証制度の適用を除外することについて合意したことが報告された。

能登空港は石川県が設置・運営する地方管理空港である。

2003年の開港時、石川県は定期路線である羽田－能登線の一
日2便の確保を目的として、搭乗率保証制度によりANAに対
して一定の搭乗率を保証している。

羽田－能登線における利用者数と搭乗率の推移はコロナ禍
による利用者数の減少を受け、19年目(2021年7月7日～2022年
7月6日)も17年目、18年目に引き続き減便、運休が多発した(表
IV-4-1)。19年目の利用者数は61,196席で、搭乗率(36.8%)、地
元利用者数(5,808席)、首都圏等利用者数(55,388席)のいずれ
も18年目(31,012席、32.8%、2,365席、28,647席)に次いで過去2
番目に低い値となった(表IV-4-1)。

●スキー場利用者数が増加も本格回復には至らず(長野県)

2022年8月、長野県は県内のスキー場(営業77か所)におけ
る、2021年11月1日から2022年5月31日の延べ利用者数が4,913
千人であったことを発表した。前シーズン比33.6%の増加と
なったものの、コロナ禍前の2018～2019年シーズン(6,454千
人)と比較すると8割弱にとどまっている。

また、2022年4月、一般財団法人長野経済研究所は、県内の
主要23か所のスキー場を対象としたアンケート調査の結果
(速報値)として、2021年11月から2022年3月のスキー場延べ利
用者数が3,589千人であったことを発表した。前シーズン比
32.4%の増加となった。

天候、降雪状況に恵まれ、営業日数が伸びた施設が多くな
ったものの、コロナ禍で訪日外国人が激減し、また2022年1月以
降、再び感染が拡大したため、本格回復には至らなかったこと
が要因として挙げられている。

●拠点滞在型観光推進のための観光プランを作成(三重県)

三重県では、宿泊施設を拠点とした旅行者の長期滞在を推
進するため、三重ならではの46の観光プランを造成した。

“三重の「イマしかない」「ココしかない」体験を楽しみに三

重を訪れよう”をコンセプトとした「みえのイマココ旅」ブラン
ドで、体験プランの魅力を伝える動画の配信やエリア別ガイ
ドブックの公開・配布等の情報発信や、「歴史・文化」、「自然」、
「食」、「ナイト&モーニング」、「サステナブル」の5つのテー
マで特別な体験の提供等が展開される予定。

②広域・市区町村レベル

●福井銀行、地域観光商社を設立(福井県)

2022年7月28日、福井銀行は地域観光商社「ふくいヒトモノ
デザイン」を、全額出資の子会社として設立した。銀行法の改
正により、地域金融機関が本業以外でデジタル化や地方創生
等の事業ができるようになったことを受けて設立されたもの
である。

福井県内の観光地や地場産品等地域資源の魅力や価値を
高める観光事業、物販事業を手掛ける予定で、2022年9月3日
付で第2種旅行業の登録を受けた。

●AIオンデマンド乗合タクシー実証実験(長野県)

長野県白馬村では、2022年12月19日から2023年2月28日の夜
間にAIオンデマンド乗合タクシー「白馬ナイトデマンドタク
シー」の実証実験を行った。村内の移動は主に路線バスに限
られるという課題があり、特に外国人観光客に対して利便性
の高いモビリティを提供するため、専用アプリからの予約に
応じて、村内の所定停留所間の最適なルートを選択して運
行するものである。約70日間の運行期間で、アプリ登録者数
は3,939人(うち外国人2,875人)、累計乗車人数は約1万2千人に
達した。

この結果を受け、2023年7月1日から土休日に、避暑やトレ
ッキングに訪れる観光客を主な対象とした「白馬夏のデマンド
タクシー」の実証実験が行われている。

表IV-4-1 羽田－能登線の利用者数と搭乗率の推移

年次	対象期間		利用者数 (席)	利用者数内訳				搭乗率	搭乗率保証制度に係る目標値と実績			
				地元		首都圏等			目標 搭乗率	支払なし とする範囲	保証金 (県→ANA)	協力金 (ANA→県)
	自	至		利用者数	構成比	利用者数	構成比					
1年目	03/07/07	04/07/06	151,015	56,242	37.2%	94,773	62.8%	79.5%	70.0%	—	—	97,329千円
2年目	04/07/07	05/07/06	155,623	52,395	33.7%	103,228	66.3%	64.6%	63.0%	—	—	15,989千円
3年目	05/07/07	06/07/06	160,052	48,991	30.6%	111,061	69.4%	66.5%	64.0%	±1.0ポイント	—	20,000千円
4年目	06/07/07	07/07/06	156,945	45,384	28.9%	111,561	71.1%	65.1%	62.0%	±4.0ポイント	—	—
5年目	07/07/07	08/07/06	158,558	36,039	22.7%	122,519	77.3%	65.4%	62.0%	±4.0ポイント	—	—
6年目	08/07/07	09/07/06	150,365	32,127	21.4%	118,238	78.6%	62.3%	62.0%	±4.0ポイント	—	—
7年目	09/07/07	10/07/06	149,010	33,426	22.4%	115,584	77.6%	62.3%	62.0%	±4.0ポイント	—	—
8年目	10/07/07	11/07/06	132,698	30,932	23.3%	101,766	76.7%	55.8%	62.0%	±4.0ポイント	震災により適用除外	—
9年目	11/07/07	12/07/06	149,117	32,526	21.8%	116,591	78.2%	62.0%	62.0%	±4.0ポイント	—	—
10年目	12/07/07	13/07/06	150,542	35,041	23.3%	115,501	76.7%	63.2%	62.0%	±4.0ポイント	—	—
11年目	13/07/07	14/07/06	147,129	33,356	22.7%	113,773	77.3%	62.7%	62.0%	±4.0ポイント	—	—
12年目	14/07/07	15/07/06	150,712	31,428	20.9%	119,284	79.1%	63.6%	62.0%	±4.0ポイント	—	—
13年目	15/07/07	16/07/06	152,834	29,622	19.4%	123,212	80.6%	63.7%	62.0%	±4.0ポイント	—	—
14年目	16/07/07	17/07/06	157,611	28,319	18.0%	129,292	82.0%	65.6%	62.0%	±4.0ポイント	—	—
15年目	17/07/07	18/07/06	162,903	26,720	16.4%	136,183	83.6%	69.2%	62.0%	±4.0ポイント	—	22,764千円
16年目	18/07/07	19/07/06	169,840	25,884	15.2%	143,956	84.8%	71.2%	62.0%	±4.0ポイント	—	37,000千円
17年目	19/07/07	20/07/06	120,068	17,471	14.6%	102,597	85.4%	61.8%	62.0%	±4.0ポイント	コロナ禍により適用除外	—
18年目	20/07/07	21/07/06	31,012	2,365	7.6%	28,647	92.4%	32.8%	62.0%	±4.0ポイント	コロナ禍により適用除外	—
19年目	21/07/07	22/07/06	61,196	5,808	9.5%	55,388	90.5%	36.8%	62.0%	±4.0ポイント	コロナ禍により適用除外	—

資料：能登空港「のと里山空港1年～19年目の搭乗率」、石川県「能登・羽田便19年目の利用状況について(速報)」をもとに(公財)日本交通公社作成

●ホテル業界初の完全無人売店オープン(長野県)

2022年12月24日、東急リゾート&ステイが運営する「ホテルタングラム」(長野県信濃町)内に、24時間レジレス無人売店「タングラムスマートストア」がオープンした。ゲートに入店用2次元コードをかざして入店後、欲しい商品を手に取り、そのままゲートを出れば決済完了となる。

●下呂温泉観光協会が先駆的DMOに(岐阜県)

一般社団法人下呂温泉観光協会(岐阜県下呂市)は、2023年3月28日、観光庁より先駆的DMO(観光地域づくり法人)に選定された。

先駆的DMOの選定にあたっては、「観光による受益が広く地域にいきわたり、地域全体の活性化を図っていること」、「誘客/観光消費戦略が持続的に策定される組織体であること」について6つの要件があるが、下呂温泉観光協会はそのうちいずれかの項目で一定の水準を満たしていないBタイプとして選定された。

先駆的DMOに対しては、世界に誇れる持続可能な観光地域づくりを行う「世界的なDMO」の形成を目指した戦略的な伴走支援等が実施される予定であり、Bタイプに対しては一定の水準を満たす項目を高水準に引き上げるための支援が行われる。

下呂温泉観光協会では、エコツーリズムとDMOを融合させた「E-DMO」による地域づくり等に取り組んでおり、下呂温泉の2022年度の宿泊客数は約93万人で、コロナ禍前の2019年度の約9割まで回復している。

●「ぎふ信長まつり」に約62万人が来場(岐阜県)

2022年11月5・6日の2日間にわたって、JR岐阜駅北口周辺で「岐阜市産業・農業祭〜ぎふ信長まつり〜」が3年ぶりに開催され、2日間合わせて約62万人が訪れた。2日目の「信長公騎馬武者行列」には人気俳優がゲスト出演し、事前に行われた観覧申し込みには定員の64倍となる約96万人の応募があった。

●各地で伝統行事が復活

2022年は、コロナ禍により開催中止を余儀なくされていた伝統行事の多くが2019年以来3年ぶりに開催された。

日本三大盆踊りのひとつとされる岐阜県郡上市の「郡上おどり」が、2022年7月9日から9月3日に開催された。期間中の17夜に限定し、また「徹夜おどり」の時間短縮等、規模を縮小しての開催となった。

富山市八尾町で300年以上にわたって踊り継がれてきたとされる「おわら風の盆」が、2022年9月1日から3日に開催された。感染対策のため、例年8月20日から11日間行う「前夜祭」、各町(11支部)が競演する「おわら演舞場」、9月2日から4日に始発列車に合わせて越中八尾駅ホームで行う「見送りおわら」をいずれも取りやめる等、規模を縮小して開催された。

このほか、2022年に開催された主な伝統行事は次のとおり(一部は規模を縮小して開催)。

表IV-4-2 2022年に開催された主な伝統行事

伝統行事	開催地	2022年の開催日
能登島向田の火祭	石川県七尾市	7月30日
春の高山祭(山王祭)	岐阜県高山市	4月14~15日
秋の高山祭(八幡祭)		10月9~10日
古川祭	岐阜県飛騨市	4月19~20日
犬山祭の車山(ヤマ)行事	愛知県犬山市	4月2~3日
桑名石取祭	三重県桑名市	8月6~7日
上野天神祭のダンジリ行事	三重県伊賀市	10月21~23日

資料:各主催団体・自治体等のウェブサイトをもとに(公財)日本交通公社作成

●「ジブリパーク」開園(愛知県)

2022年11月1日、愛知県長久手市の「愛・地球博記念公園(モリコロパーク)」内に、スタジオジブリ作品の世界を表現した公園「ジブリパーク」が開園した。第1期エリアとして「ジブリの大倉庫」、「青春の丘」、「どんどこ森」の3エリアが開園し、2023年11月1日に「もののけの里」、2024年3月16日に「魔女の谷」が第2期エリアとしてそれぞれ開園予定である。

また、愛知県は来園者を県内各地での宿泊や周遊観光に誘導するための取り組みを進めており、2022年1月27日にスタジオジブリが手掛けた観光動画「風になって、遊ぼう。」を公開したほか、開園に先立つ2022年8月9日には、特設サイト「ジブリパークのある愛知への旅」を開設した。特設サイトはジブリパークのチケット販売サイト内に開設されており、来園者やジブリファン向けに特化した県内の観光プログラム、ジブリパークを出発地としたモデルコース等を紹介している。

●近鉄がサイクルトレインを運行(三重県ほか)

近畿日本鉄道では2022年9月3日より、三重県の山田線・鳥羽線・志摩線の松阪~賢島間で、自転車解体せずに車内に持ち込める「サイクルトレイン」を、多客期を除く通年で開始した。平日は五十鈴川~賢島間で9時台から14時台まで、土休日は松阪~賢島間で8時台から17時台まで利用可能で、事前予約、追加料金はいずれも不要。

また、2023年3月からは春秋のサイクリングに適した季節に観光列車「つどい」を利用したサイクルトレイン「KettA」の運行を開始した。

いずれも沿線自治体によるサイクルツーリズム促進の一環である。

●三重広域連携モデル「美村」スタート(三重県)

商業リゾート施設「VISON(ヴィソン)」がある三重県多気町と大台町、明和町、度会町、紀北町の5町が行政区域の枠を超えて連携し、5町をひとつの「美村(びそん)」と位置付け、デジタル田園都市国家構想「三重広域連携モデル」の推進に取り組んでいる。

2023年1月27日、VISON内の64店舗、紀北町を除く4町のスーパーや飲食店等の加盟店で使用可能なデジタル地域通貨「美村PAY」のサービスが開始された。また、2月6日には、地域住民向けのポータルサイト「美村」と、観光客向けのポータルサイト「美村Travel」が公開された。

(小川直樹)